

令和6年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学校運営方針	・安全で安心な学びの場を提供し、心身ともに健全な生徒を育成する。 ・小規模校の特徴を生かし、個に応じた指導を徹底し、基礎学力の向上を図る。 ・地域と連携したキャリア教育を推進しつつ、将来の在り方・生き方を探究する生徒を育成する。	
	三つの方針(スクール・ポリシー)	
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①一人一人の個性や能力を伸ばし、未来を切り拓くための学力を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域振興の心を持ったグローバル人材となるための国際感覚とコミュニケーション能力を育成します。 ③地域や仲間と協力し、自ら課題を発見する力や課題解決案を考える力を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①2つのコースを設置して、生徒の進路希望や興味関心に応じた、学ぶ意欲を高める授業を行います。 ②総合的な探究の時間、学校設定科目をとおして、地域連携や教科を横断した授業に取り組み、自ら課題を発見し、他者と協働して解決策を考える学習、活動を行います。 ③習熟度別授業を取り入れたわかる授業を行います。 ④課題に対し、生徒が自ら考え、適切に他者に伝え、答えを導き出そうと取り組む過程を、レポートや発表など多面的な評価方法でバランス良く評価します。	
入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①佐渡の自然や文化に魅力を感じ、地域の課題解決に向けた探究活動に意欲的に取り組む生徒 ②基礎的な学力を有し、主体的に学び続ける生徒 ③多様な考え方を受け入れ、互いに協力し、よりよい人間関係を築こうとする生徒 ④将来の自己実現と社会貢献をめざす意欲のある生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
昨年度の成果 ・生徒の様子を教職員間でスムーズに情報共有することで、いじめ認知、生徒の悩みに早期に対応し、解決につながった。 ・地域と連携した取組が評価され、県、市のシンポジウムなどに高校生の代表として参加し、活躍した。 今年度の課題 ・教職員間のより一層の情報共有を進め、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に向け、組織的に対応する。 ・ICTをより一層活用し、生徒の学習活動や探究活動等を推進する。 ・探究学習をさらに推進し、地元地域の他、島外と連携した取組、探究活動を目指すとともに、生徒の進路実現につなげる。	生徒指導の充実	・生徒の健康観察を確実に行うとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に向け、学校一丸となって組織的に対応する。 ・生徒の社会性及び自立性の育成に努め、学校生活で「規律ある自由」を意識させ、高い社会規範を身につけさせる。
	学習指導及び進路指導の充実	・生徒の実態に合わせた授業の工夫・改善を行い、生徒の学習意欲を喚起し、学力向上を図る。 ・キャリア教育と連動させ、自己の可能性を発見させることで、生徒に明確な目標をもたせた進路指導を推進する。
	ICTを活用した学ぶ意欲の醸成	・学校全体でICTを活用し、一人一台端末を生かした新たな取組に積極的に挑戦する。 ・遠隔授業を行い、より専門性の高い授業を行うことで、学習意欲を高める。
	さらなる地域連携とキャリア教育の推進	・地域の特性や豊かな教育資源を活用し、選ばれる学校に向けた取組と情報発信を行う。 ・主体的な活動を通して、チャレンジ精神、達成感・自己肯定感を高め、豊かな心と主体性・協調性やリーダーシップを育成する。

重点目標	具体的目標	具体的方策			評価	
生徒指導 の充実	・生徒の健康観察を確実に行うとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期解決一丸となって組織的に対応する。	1 学年	生徒の健康観察を毎日確実に行う。	A	A	
			面談や日々の観察で生徒に寄り添い、心理的な不安の解消を図る。	A		
			いじめの未然防止に向けた啓発活動に努める。	B		
		2 学年	面談や日々の観察で生徒に寄り添い、心理的な不安の解消を図る。	A	A	
			いじめ類似行為・いじめの未然防止に向けた啓発活動に努め、早期発見・早期解決に向け、組織的に対応する。	A		
		3 学年	生徒の健康観察を毎日確実に行う。	A	A	
			面談や日々の観察で生徒に寄り添い、心理的な不安の解消を図る。	A		
			いじめ類似行為・いじめの未然防止に向けた啓発活動に努め、早期発見・早期解決に向け、組織的に対応する。	A		
		生徒指導部	すべての職員や生徒同士がお互いの健康状態を把握できるように、最低週 1 回以上は、連絡などで注意を喚起し、意識させる。	B	A	
			年 3 回のアンケートとクラスでの面談などにより、いじめの未然防止や早期発見・早期解決に努める。また、保護者へいじめ防止や相談窓口などの案内を通して、理解と協力のもと連携して指導にあたる。	A		
教務部	情報の共有化を図り、会議の効率化に努める。	A	A			
	事態の変化に対応できる環境づくりに努める。	A				
	Webページを用いた学校からの発信に努める。	A				
	・生徒の社会性及び自立性の育成に努め、学校生活で「規律ある自由」を意識させ、高い社会規範を身につけさせる。	1 学年	欠席や遅刻・早退の連絡を徹底させる。	A	B	
			制服の着こなしについて、HR や学年集会などで適宜指導する。	B		
			廊下・教室の整理整頓を徹底する。	C		
		2 学年	欠席や遅刻・早退の連絡を徹底させる。	B	B	
			身だしなみ・制服の着こなしについて、HR や学年集会などで適宜指導する。	A		
			廊下・教室の整理整頓を徹底する。	B		
		3 学年	欠席や遅刻・早退の連絡を徹底させる。	A	A	
			身だしなみ・制服の着こなしについて、HR や学年集会などで適宜指導する。	A		
			廊下・教室の整理整頓を徹底する。	A		
		教務部	P T A として地域の研修会に積極的に参加して、学校間・地域との連携を密にする。	A	B	B
			「P T A だより」を発行し、保護者への広報活動を行う。	B		
		生徒指導部	頭髪服装検査を学期に 1 回実施するとともに、日常でも注意喚起を行う。	B	A	
			学期に1回以上、生徒会が主体となり、交通安全やいじめ防止等の取り組みを行う。	A		
			年 3 回以上、全校集会でマナーの向上について働きかけを行う。	B		
			バイク実技講習会を通して技術の向上を促し交通事故件数 0 件を目指す。	A		
			全校生徒対象の交通安全講演会を行う。	A		
			交通安全街頭指導を全職員が協力して行う。	B		
			薬物乱用防止の講演会を行い、生徒の自覚を促す。	A		
生徒指導に関する情報について、P T A だより、保護者案内などを通して周知し、理解と協力を得る。	A					
生徒指導に関する問題について、家庭や専門機関などと連携して指導に当たる。	A					
学習指導 及び進路 指導の充実	・生徒の実態に合わせた授業の工夫・改善を行い、生徒の学習意欲を喚起し、学力向上を図る。	1 学年	学習意欲の向上と節度ある学校生活を目指し、チャイム着席を徹底する。	B	B	
			課題やワーク・ノート・ファイルなどの提出を徹底する。	C		
			各教科との情報交換をもとに、生徒との個別面談を年間 3 回以上実施する。	A		
			学校生活の様子や行事予定などの情報を提供するために、「学年だより」を学期に 1 回以上発行し、生徒の学校生活に対して保護者との共通理解をはかる。	A		
		2 学年	課題やワーク・ノート・ファイルなどの提出を徹底する。	B	B	

			各教科との情報交換をもとに、生徒との個別面談を年間3回以上実施する。	A	B
			学校生活の様子や行事予定などの情報を提供するために、「学年だより」を学期に1回以上発行し、生徒の学校生活に対して保護者との共通理解をはかる。	B	
		3 学年	授業への意欲向上と節度ある学校生活を目指し、課題などの提出を徹底する。	B	A
			各教科との情報交換をもとに、生徒との個別面談を学期に2回以上実施する。	A	
			学校生活の様子や行事予定などの情報を提供するために、「学年だより」を年間で5回以上発行し、生徒の学校生活に対して保護者との共通理解をはかる。	A	
		教務部	豊かな人間性と主体的に学ぶ態度・習慣を育成するために各学年と連携し、授業・行事・考査等のバランスを取り、家庭学習を含む生徒の学習活動の充実を図る。	B	B
	・キャリア教育と連動させ、自己の可能性を発見させることで、生徒に明確な目標をもたせた進路指導を推進する。	1 学年	進路指導に関する生徒との個別面談を学年で1回以上実施する。	A	A
			保護者と教職員が連携した教育活動が展開できるよう、保護者との個人面談を年1回以上実施する。	A	
		2 学年	進路指導に関する生徒との個別面談を年1回以上実施する。	A	A
			保護者と教職員が連携した教育活動が展開できるよう、保護者との個人面談を年1回以上実施する。	A	
		3 学年	進路指導に関する生徒との個別面談を年2回以上実施する。	A	A
			保護者との協力のもと、教育活動が展開できるよう、生徒、保護者との三者面談を、年1回以上実施する。	A	
		教務部	進路希望に即した科目選択ができるよう、生徒への情報提供に努める。	A	A
			豊かな人間性と確かな学力の基盤を育成するために授業・行事・考査等のバランスの取れた計画を立案する。	A	
		進路指導部	1年生で職業レディネステストを実施し、適性、興味・関心について自己理解を深め、進路希望につなげる。	A	A
			各学年と連携して、模擬試験を有効に活用する。		
			年間 1年生3回、2年生4回、3年生9回、小論文模試を2回以上実施し、大学等進学希望者に受験を促す。	A	
			各学年と連携して、年2回の進路ガイダンス等の充実に努める。	A	
			「総合的な探究の時間」等で行われる進路学習において、学年団と連携し、ガイダンス等の充実に努め、生徒への進路情報の提供を支援する。	A	
			進路に関する資料提供を充実させる。HRへの配付資料を精査する。進学相談室内の資料の整備に努め、利用しやすい環境にする。	B	
			進路だよりを年間3回以上発行する。	A	
			自己情報と進路情報を接近させ、進路に対する自己概念を明確にするため、HR担任などと連携し、キャリア・カウンセリングを継続的に行う。	B	
			オープンキャンパスやWeb等での講演会・説明会等への参加を促すことなどにより、啓発的経験をさせる。	B	
			LHR、「総合的な探究の時間」などにおける、新入生意識啓発講演会、進路ガイダンス等において充実した講師を紹介する。	A	
			PTAとの連携を図り、保護者の意識啓発のためのガイダンスを年1回以上行う。	B	
			学年と協力して、大学・短大、看護系専門学校等への進学希望者には模擬試験の受験を促し、学力の向上を図る。	A	
			各教科、学年による、進学のための放課後補習、夏季補習などの支援をし、受験に対しての意識を高める。	A	
			公務員希望者に対し、模試やセミナーへの受験・参加を促す。	A	
			関係機関と協力し、求人情報を充実させ、生徒等に周知する。	A	
			就職相談室を利用しやすくし、資料を充実させる。	A	
			クラス担任との連携により、生徒・保護者の意向を聞き、整理し、ミスマッチをなくす。	A	

			1 年生：働く意義を考え、夢のある進路選択のきっかけとするため、講演会・ガイダンスを3回以上実施する。	A		
			2 年生：勤労観・職業観を目的とした、全員の課題解決型職場体験インターンシップの実施に協力する。	A		
			2 年生：2 年生終了時には、進路目標を明確にできるよう、講演会やガイダンスを年3回以上行う。	A		
			3 年生：進路目標を明確にできるよう、講演会やガイダンスを1学期中に2回以上行う。	A		
			進路希望が明確でない生徒に対して積極的に働きかけ、年度内進路希望未決定者0名を目指す。	A		
I C Tを活用した学ぶ意欲の醸成	・学校全体でI C Tを活用し、一人一台端末を生かした新たな取組する。 ・遠隔授業を行い、より専門性の高い授業を行うことで、学習意欲を高める。	1 学年	L H Rや総合的な探究の時間で、調べ学習、まとめ発表活動にI C T機器を活用する。	A	A	
		2 学年	探究活動の課題など、I C T機器での記録・発表ができるようサポートする。	A	B	
			遠隔授業など、教科書・プリント・タブレット等複数のツールを上手に使い分けられるようサポートする。	B		
		3 学年	Google Workspace for Educationを活用して、課題に取り組ませる。	A	A	A
			授業や課題提出の際に、I C T機器での記録・発表ができるようサポートする。	A		
			遠隔授業など、教科書・プリント・タブレット等複数のツールを上手に使い分けられるようサポートする。	A		
		教務部	校務支援システムを円滑に運用するとともに、指導と評価の一体化を促進する。	A	A	
			電子黒板の利用を促進するとともに利用の調整を図る。	A		
			Google Workspace for Education等を利用した課題の発信・成績評価の促進を図る。	A		
さらなる地域連携とキャリア教育の推進	・地域の特性や豊かな教育資源を活用し、選ばれる学校に向けた取組と情報発信を行う。	1 学年	「総合的な探究の時間」(佐渡学)を中心に、地域と連携した取組の推進や探究活動に積極的に取り組む。	A	A	
			ポートフォリオ等を積極的に活用し、地域との連携した取組に生徒が自ら取り組めるよう、意識啓発に努める。	B		
		2 学年	「総合的な探究の時間」(佐渡学(地域探究))を中心に、地域と連携した取組の推進や探究活動に積極的に取り組む。	B	B	
			ポートフォリオ等を積極的に活用し、地域と連携した活動に生徒が主体的に取り組めるよう、サポートする。	B		
		3 学年	「総合的な探究の時間」や地域探究科目を中心に、地域と連携した取組の推進に積極的に取り組む。	A	A	A
			Google Workspace for Education等を積極的に活用し、地域との連携した取組に生徒が自ら取り組めるよう、意識啓発に努める。	A		
		教務部	「地域探究コース」の学習を通して、生徒が自ら考え学習・探究ができるよう授業担当者のサポートをする。	B	A	
			地域と連携した取り組みを推進するための校外活動を調整する。	A		
			地域と連携した取り組みの成果をWebページや学校案内を通して、中学生や保護者、地域に向け発信する。	B		
			中学生オープンスクールの内容の充実を図る。	A		
	・主体的な活動を通して、チャレンジ精神、達成感・自己肯定感を高め、豊かな心と主体性・協調性やリーダーシップを育成する。	1 学年	学校行事や部活動等に積極的に参加できるような雰囲気をつくる。	A	A	
			委員や係の仕事を、全員が最後までやり遂げられるよう支援する。	A		
		2 学年	教職員間で協力し、学校行事や部活動等に積極的に参加できるような雰囲気をつくる。	A	B	
			生徒会活動において、生徒が達成感や充実感を味わえる機会を作り、主体的に活動できるよう努める。	B		
		3 学年	最高学年として後輩ヘリーダーシップを発揮し、まとまりのある学校をつくる。	B	B	B
		教務部	学習成果発表の機会をつくる。	A	A	
		生徒指導部	生徒会が主体となって行事の企画・運営に取り組む環境を整えるとともに、課題が生じた場合は、調整することのできる力を身に	A		

		つけさせる。		B	
		3年生引退後の秋以降は、合同練習などを計画的に取り組むことで、運動部全体の体力強化と意識の向上をはかる。	B		
成果		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の困り感に対して、教職員が迅速に対応し、教職員間の情報共有を密にすることで、早期の問題解決につなげることができた。 ・新課程における最初の3年生を迎え、学校設定科目についても変更があったが、いずれの科目も地域人材の協力を得ながら、地域と連携した教育活動を行うことができた。また、メディアプラットフォーム等を通じて活動の様子を発信することができた。 ・今後は、既存の地域連携に加え、新たな連携先の開拓や地域への情報発信と相互協力を進めていく必要がある。 	総合評価		
			A		